

平成29年度鴨川市文化財保護審議会

平成30年3月20日 午後2時00分
鴨川市文化財センター 学習室

1. 開 会

2. あいさつ

3. 議 件

(1) 市指定文化財の候補について

1. 「嶺岡牧大浦木戸周辺の野馬土手」
2. 「房州峯岡山野絵図・房州朝夷郡柱木野絵図」
3. その他の指定候補

(2) その他

報 告

1. 「誕生寺祖師堂」の指定
2. 伊八ツアーの催行
3. 国指定特別天然記念物「鯛の浦タイ生息地」の現状変更
4. 清澄寺中門の屋根の改修工事について
5. 日本遺産の申請について
6. 企画展「彫物大工・廻塚の伊八、その実像を探る」の開催

その他

4. 閉 会

鴨川市文化財保護審議会委員名簿

| 氏名 | 住所 | 生年月日 | 分野 | 備考 | |
|------|------------|----------|-----------------|----------------------------|-----|
| 渡邊 宏 | ■■■■■■■■■■ | ■■■■■■■■ | 有形文化財 (建築) | 元明石工業高等専門学校教師 | 副会長 |
| 松原智美 | ■■■■■■■■■■ | ■■■■■■■■ | 有形文化財 (仏教美術) | 中野区文化財保護審議委員 津田塾大学非常勤講師 | |
| 佐藤恵重 | ■■■■■■■■■■ | ■■■■■■■■ | 有形文化財 | 元安房博物館上席研究員 元長狭中学校長 | |
| 小谷善親 | ■■■■■■■■■■ | ■■■■■■■■ | 有形文化財 | 元小湊小学校長 善龍寺住職 | 会長 |
| 杉山春信 | ■■■■■■■■■■ | ■■■■■■■■ | 埋蔵文化財 | 元鴨川市遺跡調査会 主任調査員 陶芸家 | |
| 富樫辰也 | ■■■■■■■■■■ | ■■■■■■■■ | 記念物 (海洋) | 千葉大学海洋バイオシステム 研究センター 教授 | |
| 石橋整司 | ■■■■■■■■■■ | ■■■■■■■■ | 記念物 (植物) | 東京大学大学院農学生命科 附属演習林 林長 | |

任期：平成29年4月1日～平成31年3月31日

鴨川市文化財の保護に関する条例（抜粋）

第4章 文化財保護審議会

（設置）

第24条 教育委員会の諮問に応じて、文化財の保存及び活用に関する重要事項について調査審議し、並びにこれらの事項に関して教育委員会に建議するため、法第190条第1項の規定により鴨川市文化財保護審議会（以下「審議会」という。）を置く。

（組織）

第25条 審議会は、委員10人以内で組織する。

- 2 委員は、識見を有する者のうちから教育委員会が委嘱する。
- 3 審議会に、会長及び副会長各一人を置き、委員の互選により定める。
- 4 会長は、審議会を代表し、会務を総理する。
- 5 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

（任期）

第26条 委員の任期は、2年とする。

- 2 補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（議事）

第27条 審議会の会議は、会長が招集し、議長となる。

- 2 審議会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。
- 3 審議会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

3. 議件

(1) 市指定文化財の候補について

1. 「嶺岡牧大浦木戸周辺の野馬土手」(市指定史跡)

※別紙資料1・2参照

2. 「房州峯岡山野絵図・房州朝夷郡柱木野絵図」(市指定有形文化財)

※別紙資料3参照

今後の指定に向けた手続きのスケジュール(予定)

- ・8月 教育委員会から文化財保護審議委員会へ、文化財指定の可否に関する諮問
- ・9/10月 文化財保護審議会にて指定の可否について審議 教育委員会へ答申
- ・12月 教育委員会議にて指定の決定 告示
- ・31年1月 広報かもがわや報道関係に周知

3. その他の指定候補

※別紙資料4参照

(2) その他

報告

1. 「誕生寺祖師堂 附・指図、棟札、奉納額」

平成29年11月18日 鴨川市指定有形文化財に指定

2. 伊八ツアーの催行

都内の旅行会社主催による、鴨川市といすみ市に所在する初代伊八作品を巡るツアーが催行された。2泊3日で鴨川に連泊。

○平成29年7月6日(木) 7日(金) 郷土資料館 鴨川市内 参加者4名
また、木更津、君津、南房総市の伊八を巡るツアーが2回催行された。

2泊3日で館山に連泊

○平成29年10月23日(月) 南房総市 参加者7人

○平成29年10月30日(月) 南房総市 参加者5人

※来年度も同様のツアーを催行の予定。

3. 国指定特別天然記念物「鯛の浦タイ生息地」の現状変更

「鯛の浦タイ生息地」の範囲内の遊歩道の落石防護柵内に堆積した土石を除去し、見学者の利便性の向上と安全確保を目的とした作業の実施。

平成29年8月15日 関東森林管理局長より現状変更の許可申請

平成29年9月15日 文化庁長官より同意

平成30年2月9日 関東森林管理局長より完了報告

※別紙資料5参照

4. 清澄寺中門の屋根の改修工事について

平成15年度に実施した屋根の葺き替え工事以降、茅葺きの状態が悪化し、このまま放置すれば、構造部分に雨漏りによる損傷が及ぶおそれがあることから、平成29年度の県の補助事業として、清澄寺中門の改修工事を実施。

平成30年3月初旬から工事を始め、3月末に終了する予定。

総事業費 6,868,800円

県補助金 3,400,000円

市補助金 1,200,000円

所有者負担 2,268,800円

※別紙資料6参照

5. 日本遺産の申請について

房総の「4つの海」

干潟・交流・荒波・砂浜の4つの海を巡る歴史文化と景観・恵みの旅

○日本遺産 文化庁が平成27年度から取り組むプロジェクトで、文化遺産を組み合わせたストーリーを国が認定し、文化財の活用、観光、地域振興に役立てようとするもの。

千葉県が中心となり、11市町が申請者となって、平成30年2月上旬に文化庁に申請書を提出した。

4月下旬に認定結果が公表される予定。

本市内の構成文化財は「鯛ノ浦のタイ生息地」「仁右衛門島」「鴨川松島」

「魚見塚(嶺岡山系を含む)」

日本遺産に認定されれば、11市町で協議会を組織し、原則3年間の補助事業を実施し、ストーリーに基づいた地域活性化と観光振興に資する取り組みを行うことが求められる。

※別紙資料7参照

6. 企画展「彫物大工・廻塚の伊八、その実像を探る」の開催

昭和4年に発行された「日本木彫史」に記載された「廻塚の伊八」という呼称をタイトルに用い、これまで「波の伊八」の名で固定化されつつあった伊八のイメージを、最新の研究成果を踏まえて、新たな視点から問い直すことを趣旨として開催。

会 期：平成29年12月15日（土）
～30年3月11日（日）※70日間

場 所：文化財センター展示室

展示内容：初代伊八作の可能性のある鳳凰（木更津市八劔八幡神社所蔵・初公開）をはじめ、初代から四代の伊八の作品など19点を展示。

入 館 者：3,089名（市内679名 市外2,410名）

関連催事：展覧会解説講座2回開催 74名（市内38名 市外36名）

会期中、クラブツーリズムの伊八ツアーが3回催行され、合計57名が来館した。また、JR大人の休日倶楽部で郷土資料館が紹介され、今後5から6回程度、伊八ツアーが催行される予定。

鴨川市指定文化財候補詳細

1. 名 称 「嶺岡牧大浦木戸周辺の野馬土手（仮称）」
2. 所在地 鴨川市貝渚3310 鴨川市一戦場公園
3. 指定種別 鴨川市指定史跡
4. 所有者 鴨川市
5. 管理者 鴨川市
6. 範 囲 一戦場公園内の市所有公有地内
7. 特 徴

「嶺岡牧」は、「小金牧」と「佐倉牧」とともに千葉県内に所在した三つの江戸幕府直轄の牧の一つであり、そのもともとの発祥は明らかではないが、平安時代の「延喜式」に記録された安房国の官営の牧である「白浜牧」「鋤師牧（おのしのまき）」のいずれかにつながる可能性も否定できない。

県内最高峰の愛宕山（標高408m）を含む嶺岡山系全体を、いつの時代から牧に活用するようになったかについても不明だが、安房を治めた里見氏の時代に整備された牧が、「嶺岡牧」の直接的な起源であるものと考えられる。その牧は里見氏が慶長19年（1614）に国替えとなった後は、幕府の管理下に置かれ、代官の預かりとなった。元禄10年（1697）には幕府の馬方によって、野馬捕りが行われたことが「徳川實記」に記録されている。

江戸幕府八代将軍・徳川吉宗の時代、享保7年（1722）に再整備され、当初は西牧と東牧の二牧であったが、享保11年（1726）には南房総市域の柱木牧が開かれ、三牧となり、総面積は1762町歩（1,747ヘクタール）になった。翌年には西牧と東牧をそれぞれ二つに分け、「西一牧」「西二牧」「東上牧」「東下牧」「柱木牧」の五牧となった。

享保12年には、白牛3頭の放牧も始まり、その牛乳から「白牛酪」と呼ばれる製品が製造されたことから、「嶺岡牧」は日本の酪農発祥の地として位置づけられている。

一戦場公園内に残る野馬土手は、東西およそ15km以上にわたって広がる「嶺岡牧」の最も東に位置する「東下牧」の東端に所在し、貝渚村との境となっていた土手である。この場所は「嶺岡牧」の範囲では最も海に近い場所にあり、磯村や大浦方面と往来する出入りの木

戸「大浦木戸」が設けられていたと伝えられている。

この土手は、市民に親しまれている一戦場公園内に所在し、比較的良好な状態で残っていることから、「嶺岡牧」の遺構の中でも最もよく市民の目に触れる状態にあり、「嶺岡牧」の最東端の場所を示す遺構として貴重な価値を有している。

一戦場公園 野馬土手遺構の現況 (平成29年12月現在)



嶺岡牧・東牧野馬土手（西側から）



嶺岡牧・東牧野馬土手（南側から）



嶺岡牧・東牧野馬土手（南側から）
左の白い建物はレストハウス



嶺岡牧・東牧野馬土手（南側から）
レストハウスの裏-1



嶺岡牧・東牧野馬土手（南側から）
レストハウスの裏-2



嶺岡牧・東牧野馬土手（南側から）
レストハウスの裏-3

2018年(平成30年)3月9日(金曜日)



野馬土手跡の説明を受ける亀田市長(左)ら(鴨川市仲町で)

酪農発祥の地 遺構視察

鴨川市長ら「活用考えたい」

江戸時代、鴨川市と南房総市の山間部にまたがる幕府の放牧地で、日本の酪農発祥地とされる「嶺岡牧」を巡り、鴨川市の亀田郁夫市長ら市幹部が7日、初めて現地の遺構を視察した。

文化庁の「日本遺産」認定を目指す市民らでつくる「嶺岡牧を知って活用を考える会」や市議らの呼びかけに応えた。

この日は、市から亀田市長や小柴祥司副市長ら10人あまりが参加し、市議3人が同行。同会の吉田裕迪

代表や日暮晃一世話人が、市内にある嶺岡東上牧と同東下牧の遺構を案内した。

一行は、放牧していた馬を囲い込んで捕らえる馬捕り場の石積みや、石垣が続く野馬土手、水飲み場跡などを視察。日暮世話人は「石積みなどの遺構が見事に残っている。まずは国史跡の指定を目指しては」と市に提案した。

亀田市長は「嶺岡牧について、今後どう活用できるのか考えたい」と語った。

鴨川市指定文化財候補詳細

1. 名 称 「房州峯岡山野絵図・房州朝夷郡柱木野絵図」
2. 員 数 絵図二枚
3. 指定種別 鴨川市指定有形文化財
4. 所 有 者 石井 浩
5. 寸 法 房州峯岡山野絵図 縦1220×横2735mm
房州朝夷郡柱木野絵図 縦895×横813mm
6. 年 代 享保10年（1725）頃
7. 特 徴

江戸幕府直轄の牧、「嶺岡牧」の全体像を示す江戸時代の資料としては貴重な絵図。牧の管理を担った牧士の家系である坂東の石井家に所蔵され、良好な状態で保存されている。

享保7年（1722）から牧士を務めた「石井孫左衛門」の名が記されている点、絵図の内容が、享保11年に嶺岡牧が「西一牧」「西二牧」「東上牧」「東下牧」の四牧に分けて管理される以前の状況を記録していると判断される点を勘案すると、この絵図は享保7年から10年頃の間には製作されたものと推測される。

現在、この二枚の絵図は分割されているが、両方の絵図に描かれた曾呂川の位置関係から、もともとは一枚の大きな絵図に嶺岡と柱木の両牧が描かれていたものとも推測される。

また、「石井孫左衛門控」と記されていることから、この絵図二点はオリジナルではなく、もともとあった一枚の絵図を「嶺岡牧」と「柱木牧」に分けて写したものと考えられる。おそらくオリジナルの絵図は、幕府が管理していたと推測されるが、その絵図が現在まで伝存しているか否かは不明である。

以上の点から、この二枚の絵図は、八代将軍・徳川吉宗の時代、享保10年前後、「嶺岡牧」が幕府直轄牧として再整備された当初の全体像を現代に伝える貴重な資料として、高い価値を有している。
8. 詳 細 「房州峯岡山野絵図」
 - 牧の範囲内には、高低や形状など様々な山（丘）が描かれ、その多くに呼称が記されている。
 - 牧の境界線上には、隣接する村々（野付村）の境となる地点が赤い

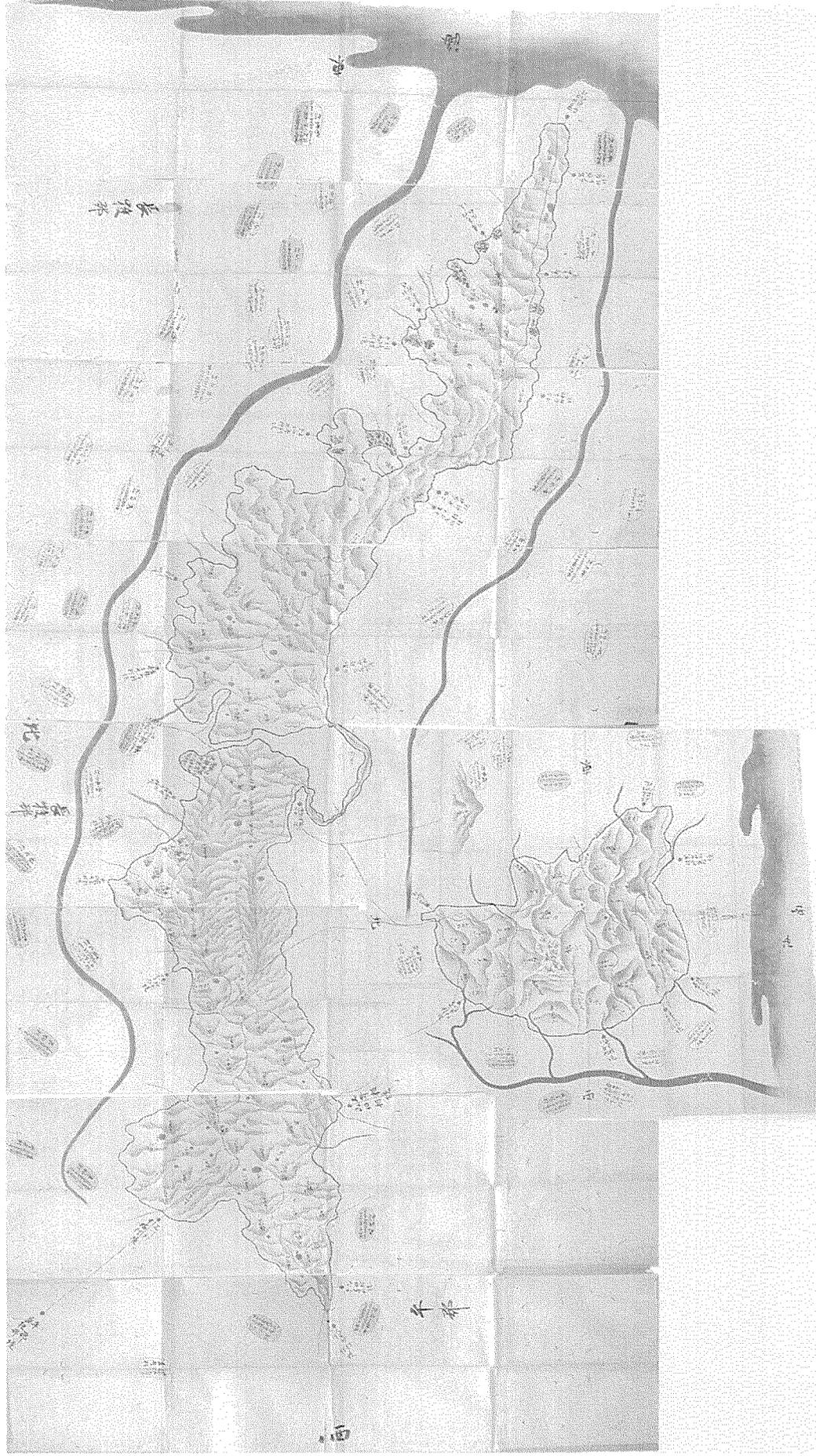
点で示されている。

- 野馬の水呑み場となる場所が、大小様々な青色の円形で58ヶ所示されている。
- 野馬を捕獲するための施設「馬捕り場」が西牧・東牧にそれぞれ1ヶ所ずつ設けられている。
- 周囲の村から牧へ入る経路及び牧の範囲内の道筋が赤色の線で記されている。
- 牧の範囲内から流れ出る小川や沢が青色の線で記されている。
- 牧の維持と管理のための労役を担う周囲54ヶ村の村名と石高が楕円形の中に記されている。
- 嶺岡牧の北に加茂川、南に曾呂川が記されている。

「房州朝夷郡柱木野絵図

- 牧の範囲内には、高低や形状など様々な山（丘）が描かれ、その多くに呼称が記されている。
- 牧の境界線上には、隣接する村々（野付村）の境となる地点が赤い点で示されている。
- 周囲の村から牧へ入る経路及び牧の範囲内の道筋が赤色の線で記されている。
- 牧の範囲内から流れ出る小川や沢が青色の線で記されている。
- 牧の維持と管理のための労役を担う周囲13ヶ村の村名と石高が楕円形の中に記されている。
- 野馬を捕獲するための施設「馬捕り場」の位置は記されていない。
- 野馬の水呑み場としては、2ヶ所が示されている。
- 牧の東北に曾呂川が、西に丸山川が記されている。
- 曾呂川の南に、独立峰として「鷹鶴山」（高鶴山）が描かれている。

「房州峯岡野絵図」と「朝夷郡柱木野絵図」



市指定文化財候補

嶺岡牧関連

| | 名称 | 所有(管理)者 | 年代 | 備考 |
|--|---------|---------|------|-----------|
| | 嶺岡山野絵図 | 石井浩 | (江戸) | |
| | 嶺岡牧野馬土手 | 鴨川市 | 不詳 | 一戦場公園付近一部 |

<彫刻>

| | 名称 | 所有(管理)者 | 年代 | 備考 |
|--|----------|---------|----|------|
| | 心巖寺本堂の彫刻 | 心巖寺 | 不詳 | 初代伊八 |

<絵画>

| | 名称 | 所有(管理)者 | 年代 | 備考 |
|--|--------------|---------|-------|--------|
| | 絹本着色胎蔵界曼荼羅 | 鴨川市 | (室町) | 成就院旧所有 |
| | 絹本着色金剛界曼荼羅 | 鴨川市 | (室町) | 成就院旧所有 |
| | 絹本墨画淡彩矜羯羅童子像 | 鴨川市 | (南北朝) | 成就院旧所有 |
| | 絹本墨画淡彩不動明王像 | 鴨川市 | (南北朝) | 成就院旧所有 |

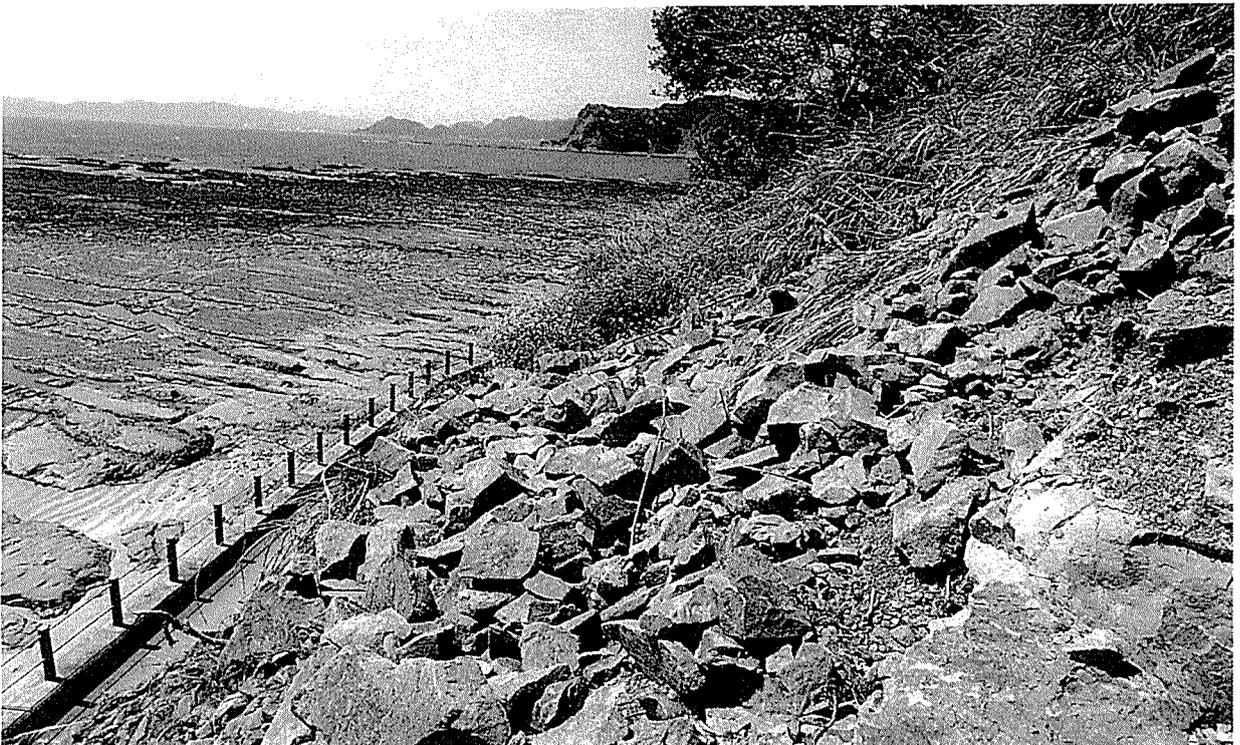
<書跡>

| | 名称 | 所有(管理)者 | 年代 | 備考 |
|--|------------------|---------|---------|-------|
| | 山名智兼等連署佐野寺別当職補任状 | 鴨川市 | 1383年 | 成就院文書 |
| | 鎌倉府執事力奉書 | 鴨川市 | 1393年 | 成就院文書 |
| | 版籍返上被仰付候事 | 鴨川市 | (1869年) | 西尾家文書 |
| | 花房藩知事被仰付候事 | 鴨川市 | 1869年 | 西尾家文書 |
| | 花房藩知事免本官 | 鴨川市 | 1871年 | 西尾家文書 |

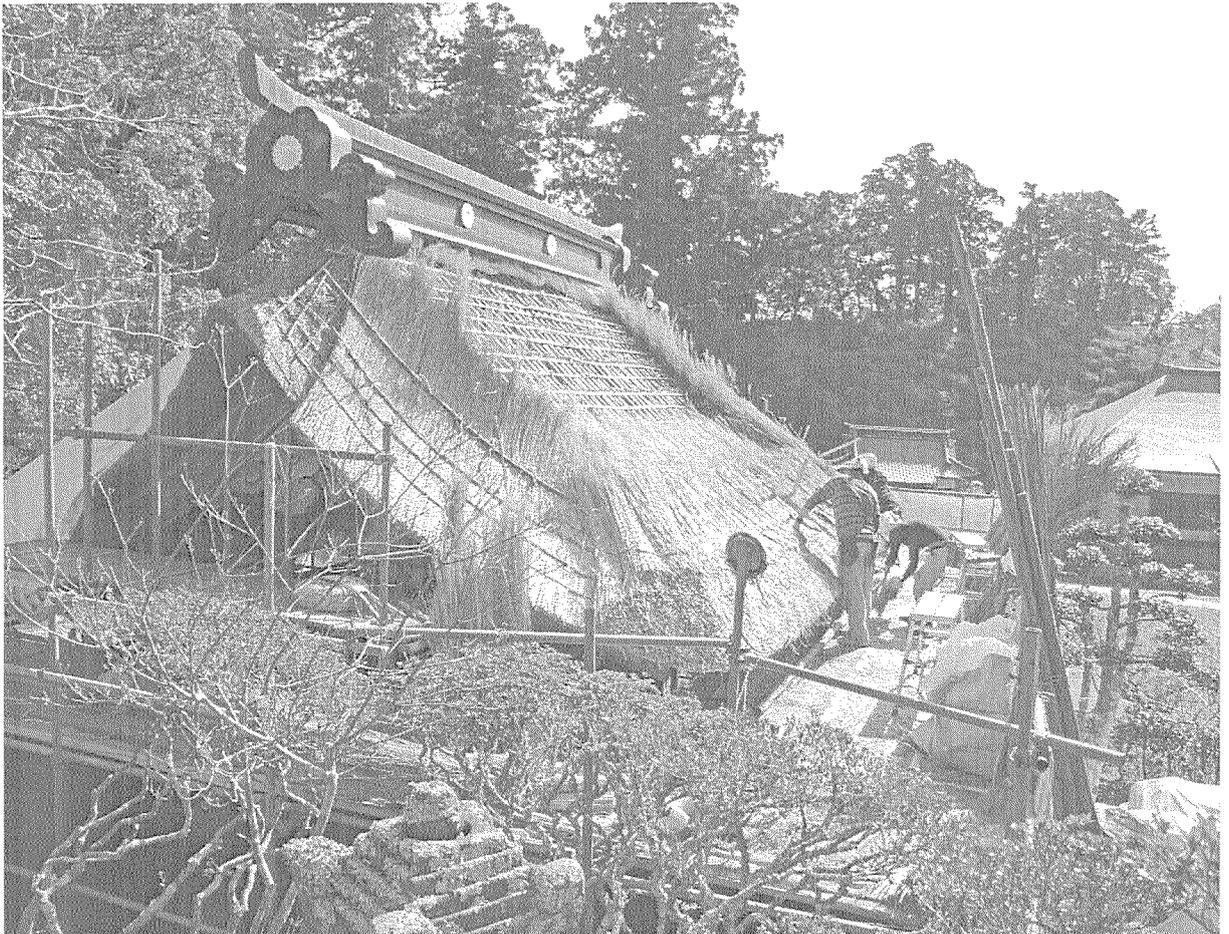
現状変更等箇所写真



遊歩道上への落石



落石防護柵上部の崩土堆積状況

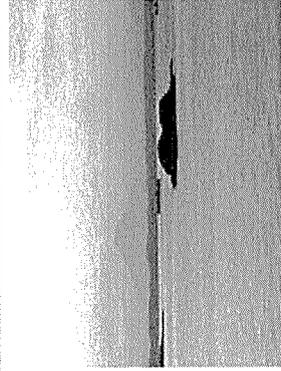
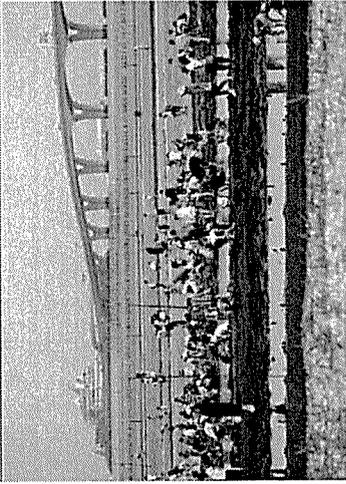


| | | | | |
|---|--|-----|--------------------------|--|
| ① 申請者 | ◎千葉県 (木更津市、富津市、鋸南町、南房総市、館山市、鴨川市、勝浦市、御宿町、いすみ市、一宮町、千葉市) | ② | 地域型 / シリアル型 A B C D E | |
| ③ タイトル | | | | |
| <p>房総の「4つの海」</p> <p>干潟・交流・荒波・砂浜の4つの海を巡る歴史文化と景観・恵みの旅</p> | | | | |
| ④ ストーリーの概要 (200字程度) | | | | |
| <p>房総半島は4つの豊かな海に囲まれている。母なる干潟「東京湾」、交流の入り江「内房」、荒波の岩礁「外房」、そして日本を代表する砂浜「九十九里浜」。</p> <p>それぞれの海岸は独特の景観で見入る者を感動させるだけでなく、それぞれの地形・地勢の特色から、豊かな恵みがもたらされ、多様な文化が生まれ、さらに、日本の歴史の中で重要な役割を担ってきた。</p> <p>房総半島はこうした多彩な海をまとめて体感できる稀有な地である。4つの海をまわり、4つの違った景観を楽しみ、歴史文化を感じ、そして、豊かな恵みを味わう旅を巡ってみよう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;">  <p>東京湾: 盤洲干潟の夕景</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>内房: 鏡ヶ浦からの富士山</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>外房: 大波月・小波月海岸</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>九十九里浜: 一宮からの光景</p> </div> </div> | | | | |
| ⑤ 担当者連絡先 | | | | |
| 担当者氏名 | 千葉県教育庁教育振興部文化財課指定文化財班 主任上席文化財主事 吉野健一 | | | |
| 電話 | 043-223-4082 | FAX | 043-221-8126 | |
| E-mail | k.yshn6@pref.chiba.lg.jp | | | |
| 住所 | 千葉県千葉市中央区市場町1番1号 | | | |

房総の4つの海ー千潟・交流・荒波・砂浜の4つの海を巡る歴史文化と景観・恵みの旅ー

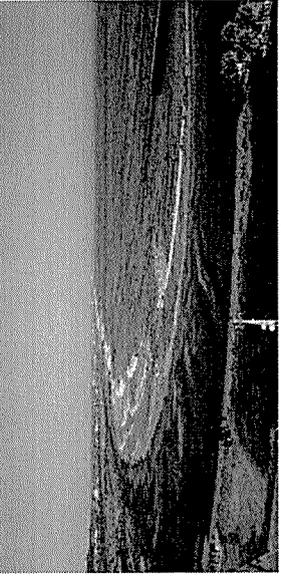
東京湾:

世界一の貝塚群を育み、世界一の都市江戸を支えた「母なる海」

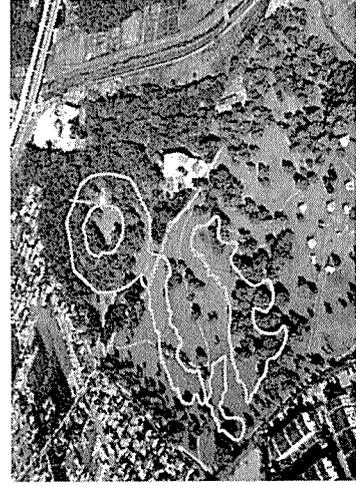


富士山

九十九里海岸

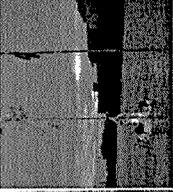
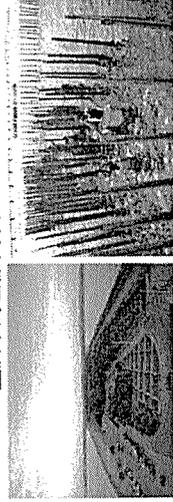


九十九里浜:かつて地引網で日本を支え、今、サーフィンで世界に名乗りを上げる「日本を代表する砂浜」



特別史跡加曾利貝塚

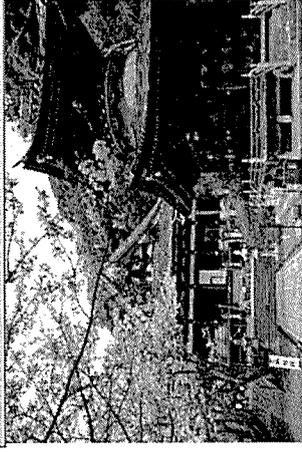
盤洲干潟と潮干狩り



富津岬

梵天立て

内房: 富士を望む東京湾の入口で人や物が行き交った「交流の入り江」



那古観音

鋸山



洲崎灯台



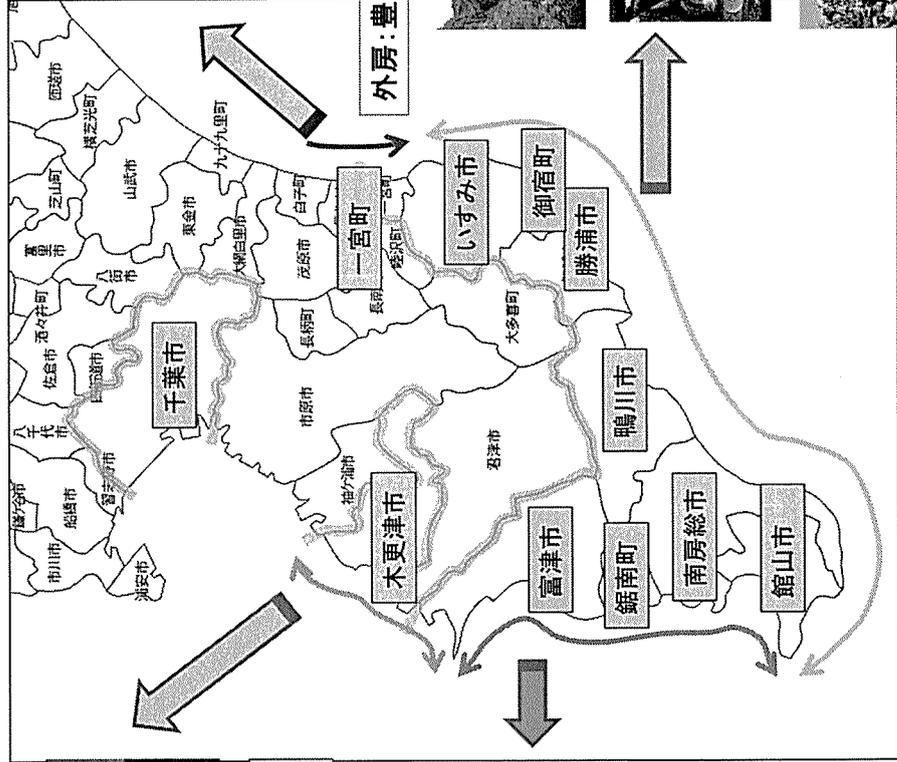
鏡ヶ浦



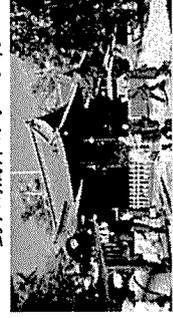
崖の観音

吾妻神社の馬出し祭り

安房やわたんまら

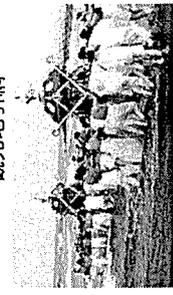


釣ヶ崎海岸のサーフィン



玉前神社

観光地引網



上総十二社祭り

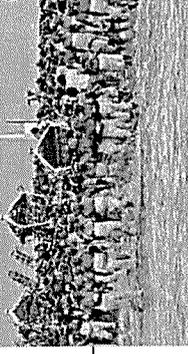
外房: 豊かな恵みをもたらし、信仰・文化を生んだ「荒波の岩礁」



大波月・小波月海岸



波の伊八「波に宝珠」



大原はだか祭り

県指定名勝 仁右衛門島



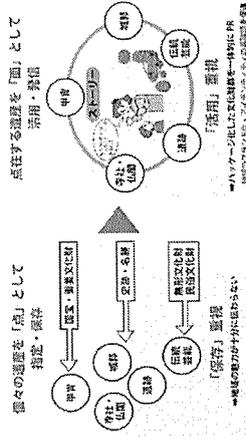
鞆原理想郷

平成30年度「日本遺産」への申請について

文化庁

1 「日本遺産」とは

- (1) 地域に点在する文化財を把握し、ストーリーによりパッケージ化
- (2) 地域全体として一体的に整備・活用
- (3) 国内外へ積極的かつ戦略的・効果的に発信



2 「日本遺産」事業の概要

- (1) 文化庁事業として2015年からスタート
- (2) 2020年までに全国で100件程度を日本遺産として認定
- (3) 平成28年度「北総四都市江戸紀行」が認定

3 期待される効果

- (1) オリ・パラに向けた訪日外国人の受け皿
- (2) 日本遺産としてのブランド力
- (3) まちづくりの核としての潜在的可能性
- (4) 地域での産業振興・観光振興

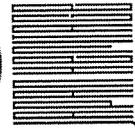
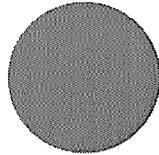
4 国からの支援

文化芸術振興費補助金（日本遺産魅力発信推進）

| | | |
|--------|--------|--------------|
| 平成27年度 | 8.1億円 | 18件認定(申請83件) |
| 平成28年度 | 12.8億円 | 19件認定(申請67件) |
| 平成29年度 | 13.5億円 | 17件認定(申請79件) |
| 平成30年度 | 13.3億円 | (17件程度認定見込) |

補助対象事業

- (I) 情報発信、人材育成事業
- (II) 普及啓発事業
- (III) 調査研究事業
- (IV) 公開活用のための整備に係る事業



日本遺産ロゴマーク

千葉県

1 申請タイトル

「房総の4つの海」
一干潟・交流・荒波・砂浜の4つの海を巡る歴史文化と景観・恵みの旅ー

2 申請者

千葉県、千葉市、木更津市、富津市、鋸南町、南房総市、館山市、鴨川市、勝浦市、御宿町、いすみ市、一宮町

3 ストーリー概要

- 房総半島の、景観や文化の異なる魅力豊かな4つの海を巡る旅を紹介。
- 【東京湾】世界一の貝塚群を育み、世界一の都市江戸を支えた「母なる海」。
- 【内房】富士を望む東京湾の入口で人や物が行き交った「交流の入り江」。
- 【外房】豊かな恵みをもたらし、信仰・文化を生んだ「荒波の岩礁」。
- 【九十九里浜】かつて地引網で日本を支え、今、サーフィンで世界に名乗りを上げる「日本を代表する砂浜」。

4 認定後の事業計画

年間4,000万円～1,000万円程度の国庫補助で事業を実施

(1) 事業主体

千葉県（文化財課）が事務局となり、千葉市ほかの関係市町等で構成する協議会で事業実施

(2) 事業期間

文化庁補助は、認定後3か年（か）補助事業終了後は、各市町村で自立的な活性化事業を実施

(3) 事業内容

「房総の4つの海」プロモーションビデオ等情報発信事業
「房総の4つの海カンファレンス」等普及啓発事業 など

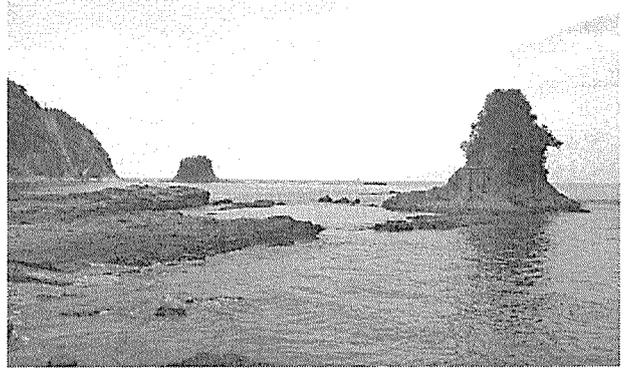
◆ 平成30年2月1日までに、平成30年度日本遺産の認定を目指す、11の市町と共同で、文化庁に申請する。

鴨川市内の構成文化財

○鯛の浦タイ生息地 国指定特別天然記念物

群れ泳ぐマダイ。

深い海に住むマダイが、ここでは浅い海に群れ泳ぐことから、日蓮聖人の誕生を祝ったとされ、人々に守られた。現在では、遊覧船からその姿を見ることができる。



○仁右衛門島 県指定名勝

海に浮かぶ伝説の島。

岩礁に囲まれた入り江に荒波を避けるように浮かんだ風光明媚な小島。

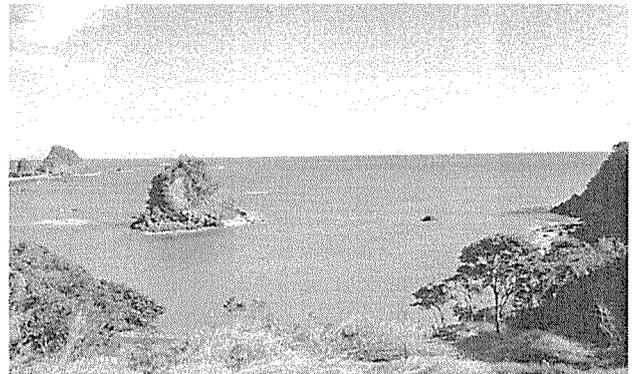
源頼朝をかくまったお礼として、頼朝から与えられたとの伝説が残る。



○鴨川松島 未指定

松島をイメージさせる七つの島。

新日本百景にも選ばれた島々は、日本三景の松島をイメージさせる。



○魚見塚 未指定

荒波の岩礁を見下ろす絶景ポイント。

太平洋に突き出した嶺岡山系の東端にあたる。嶺岡山系には江戸幕府直轄の嶺岡牧跡が良く残る。

